



静岡県の温泉資源とその魅力

北 出 恭 子¹⁾

(令和 6 年 10 月 17 受付, 令和 6 年 10 月 18 日受理)

Hot Spring Resources and Attractions of Shizuoka Prefecture

Kyoko KITADE¹⁾

1. 静岡県の温泉資源

環境省「令和 4 年度温泉利用状況」によると, 日本の温泉地総数は 2,879 ケ所, 源泉総数は 27,932 ケ所, 湧出量合計は 2,515,272 ℓ /分となっている. その中で静岡県は 118 ケ所の温泉地, 2,209 ケ所の源泉数, 110,495 ℓ /分の湧出量があり温泉地数は全国 6 位, 源泉数は全国 4 位, 湧出量は全国 7 位と非常に温泉資源に恵まれた地域であるといえよう. また, 静岡県の公衆浴場数は全国 2 位, 宿泊施設数は全国 1 位, 宿泊人数は全国 2 位など, 宿泊施設や公衆浴場の数も非常に多く, 年間を通じて多くの人々が訪れる全国でも人気の高い温泉県である(環境省, 2022). また, 筆者の調査によると, 静岡県内には, 単純温泉・塩化物泉・硫黄泉・硫酸塩泉・炭酸水素塩泉・含鉄泉の 6 種類の療養泉が存在し, pH は中性~強アルカリ性の液性範囲で, 弱アルカリ性が大半を占める. 静岡県 (2023)「温泉実態調査報告書 (令和 4 年 2 月 1 日現在)」によると, 泉温の平均は 54.98℃で 9.71℃~93.29℃の温度帯がある.

2. 伊豆半島の温泉資源の特性

「令和 4 年度静岡県温泉利用状況調査」(静岡県, 2023)によると, 伊豆半島の温泉資源は, 静岡県の源泉数の約 94%, 湧出量の約 91%を占めており, いかに当該地域に温泉資源が集中しているかがうかがえる. なお, そのうちの約 93%が動力揚湯で湧出している. また, 筆者の調査によると, 伊豆半島には, 硫酸塩泉・塩化物泉・単純温泉の 3 種類の泉質が存在し, pH は中性~アルカリ性で, pH 7.5 以上の弱アルカリ性が大半を占めており, 肌の古い角質や皮脂などを取り除く作用があるため「美肌の湯」と言われる液性である.

¹⁾温泉家・杏林大学地域総合研究所客員研究員. ¹⁾Onsen Expert・Kyorin University Regional Cooperation Visiting Researcher.

静岡県 (2023)「温泉実態調査報告書 (令和 4 年 2 月 1 日現在)」によると、泉温の平均は 58℃ でその多くが 42℃ 以上の高温泉である。さらに、海に囲まれた海辺の絶景温泉や自然環境に恵まれた森林の温泉など、海と山が望める風光明媚な温泉地が多いため、温泉成分による薬理作用や温熱・水圧・浮力などの物理作用のほか、心身のストレス解消や疲労回復といった転地作用も期待できよう。

3. 修善寺温泉について

伊豆半島ジオパーク (2024) によると、修善寺温泉は、約 50 万年前まで噴火をしていた達磨火山の麓の谷あいを通る桂川が、達磨火山の下にあった海底火山噴出物の地層に達するまで浸食し、桂川沿いの岩盤から湧出したものである。

807 (大同 2) 年に弘法大師が独鈷湯を開湯し、近世期には、中湯 (箱湯)・石湯・坪湯・杉湯・兎湯・真湯・河原湯・滝の湯という自然湧出の共同湯が 9 ヶ所存在していた (山村, 1968)。しかし、源泉を乱掘したことにより自然湧出泉の水位が低下し、昭和 20 年頃までにすべてが停止してしまふなど、一時は源泉が枯渇しかけた (鮫島, 1970)。

筆者の調べによると、その後、1981 年より温泉資源の利用を適切かつ効率的に行うべく、現在では 6 か所の源泉を温泉槽に集め、集中管理方式により配湯している。キャッチボール方式で、4 ヶ所のタンクを利用し、4 ルートで約 5 km 循環させながら、約 544 ℓ/分の源泉を旅館などへ供給を行っている。また、集中管理システムを導入したことにより、循環状況を監視画面上で可視化することで、源泉からの汲み上げに使うポンプの起動・停止などの制御を行い、配湯所の貯湯槽内の水位を一定範囲 (75~85%) に保つなどして、無秩序な温泉資源の利用を廃し、温泉水の適正利用と保護を行っている。修善寺温泉の泉質はアルカリ性単純温泉、平均泉温は約 60℃ である。

4. む す び

以上のように、静岡県には質・量ともに恵まれた世界に誇る温泉資源が存在している。現在、静岡県が取り組んでいる「伊豆ヘルスケア温泉イノベーションプロジェクト (ICOI プロジェクト)」のように、多様な泉質や幅広い温度帯などの特性を活かし、物理的・薬理的效果を最大限に発揮できるよう医学的なエビデンスの蓄積と適切な情報発信を続けていくことが重要であると考えられる。さらに、静岡県には海と山という豊かな自然環境もある。今後、海や山などそれぞれの自然環境下における心理的作用の検証についても期待される。また、修善寺温泉のように、限りある温泉資源の適正利用と保護への取り組みについても忘れてはならない。

引用文献

伊豆半島ジオパーク (2024)「修善寺温泉」。

<https://izugeopark.org/geosites/shuzenji/> (最終閲覧日 2024/8/12)。

環境省 (2022)「温泉に関するデータ」,「令和 4 年度温泉利用状況」<https://www.env.go.jp/nature/onsen/data/> (最終閲覧日 2024/8/12)。

鮫島輝彦, 小沢邦雄 (1970) :「修善寺温泉の地熱構造」, 静岡大学地学研究報告, 第 2 巻, 第 1 号, pp 37-42。

静岡県 (2023)「温泉に関する統計」,「温泉実態調査報告書 (令和 4 年 2 月 1 日現在)」

<https://www.pref.shizuoka.jp/kenkofukushi/eiseiyakuji/eiseionsen/1040425/1025045.html> (最

終閲覧日 2024/8/12).

山村順次 (1968) : 「温泉観光集落の発達と機能—中伊豆の修善寺・伊豆長岡の場合」, 歴史地理学
紀要, 10 号, pp 125-158.